

服部慎吾先生の「主体的に学習に取り組む態度の評価の実践」について

愛知教育大学 飯 島 康 之

高校での実践は、学校によってさまざまな違いがある。特に、定時制や通信制では全日制とは大きな違いがあることを、これまでもさまざまな研究会などでうかがってきた。服部先生のパワポ資料の中にはあまり明記されていないけれども、発表の折には、学校の特色などを紹介していただいた。過去の定時制では、働きながら学ぶ勤労生徒が中心であったが、今は必ずしもそうとは限らない。また、それぞれの生徒の学習歴や習熟の状況なども大きく変わるので、一人ひとりの生徒の様子を把握し、ニーズにあわせた学びのあり方を検討しなければいけない。教科書などを、事前に想定していたスケジュール通りにこなしていくというだけでうまくいくとは限らず、生徒の状況を把握し、彼らの習熟の様子や興味・関心の様子に合わせてカスタマイズしていくことが必要になる。それぞれの生徒が主体的に学ぶためにはさまざまな工夫がなされていて、今回のご発表の内容は、その中のほんの一部であるということを実感した。

特に今回の実践に関しては、「振り返りシート」に毎時間「かく」という活動を取り入れていることが特徴的だった。もちろん教科としては数学を学んでいるわけだが、学んだことをまとめることや、自分自身が何を学び、どういう点に苦手なことがあるかなどを言葉で表現することも含めて数学の中で学ぶことが想定されている。

服部先生の実践では「数学を含めてより広い学び」としての取り組みをされているねらいを実感し、納得する一方で、今後の ICT 利用の影響の可能性はどうかの难道うかと考えた。義務教育での GIGA スクール構想により、WiFi やタブレットあるいはクラウドの利用が教育の中で進んでいく。大学入試をあまり意識しなくていいなら、計算の道具として Excel などを使いこなすことに焦点をあてた数学の学びもあっていいのかもしれない。つまり、全日制の高校や、公立中学校では行いにくいけれども、目の前の生徒たちには(実用性の観点などで)合っている学びのあり方などを模索することもあっていいのかもしれない。

今後の課題として、ご検討いただければ幸いである。